

Title	古文書書籍の簡易複寫法
Sub Title	
Author	高山, 定雄(Takayama, Sadao)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.3 (1933. 8) ,p.183(561)- 184a(562a)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330800-0183

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古文書書籍の簡易複寫法

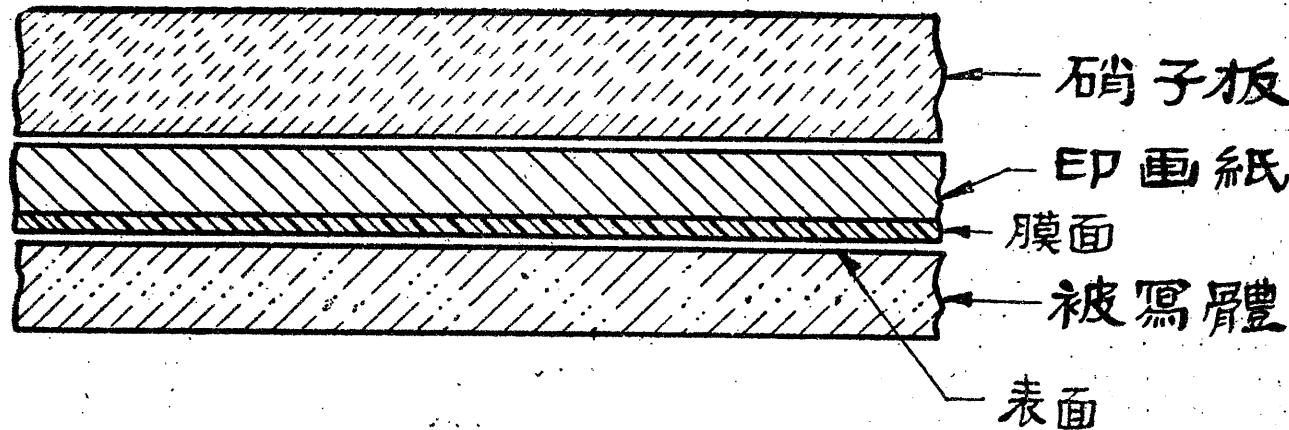
高山定雄

こゝに述べる古文書、書籍等の簡易なる等大複寫法は、所謂タイポン法であります。未だ史學研究の方面には充分利用されてをらない様ですからその方法を述べて御参考に供し度いと思ひます。

この方法は、レンズも、又乾板或はフィルムを使用せず、直接印畫紙に寫して、所謂ペーパーネガティヴを作り、それに依て陽畫を得るものであります。從て特に技術も要せず、費用も僅少で、然も現物と等大の複寫が爲し得られる特徴をもつてをります。印畫紙は、ネガティヴ、ポジティヴ共に國產品で、オリエンタル寫眞工業株式會社製のコンマーシャル紙(Commercial papers)を用ひます。現像は、印畫紙指定の處法に従つて處理す

るのが最も望ましいことですが、市販のMQ現像薬でも相當の效果を得ることが出来ます。定着は、酸性固膜定着液を使用するのが理想的ですが、唯のハイボ一液でも先づ良いでせう。現像定着の處理は、寫真用の茶色の電球の下で行ひ、焼付は北窓光線、若しくは普通の電球で致します。ネガティヴは大體(一圖の様にして寫し撮ります。方法は至極簡単ですから敢て説明を要しませんが、蛇足として附け加へれば、先づ複寫せんする古文書、その他の對象物に印畫紙の膜面を密着せしめ厚い硝子板でこれを抑へ、その上より光を當てます。(普通北窓光線にて三秒乃至六秒位) 斯うして露光した印畫紙を、現像し、定着し、水洗してネガティヴを作ります。ポジティヴを得るには、申す迄もなくこのネガティヴに新しい印畫紙を密着せしめて焼付け、ネガの場合と同様に處理致します。(一圖はネガティヴの作り方、二圖はネガティヴ(三圖はポジティヴ)。

光 線

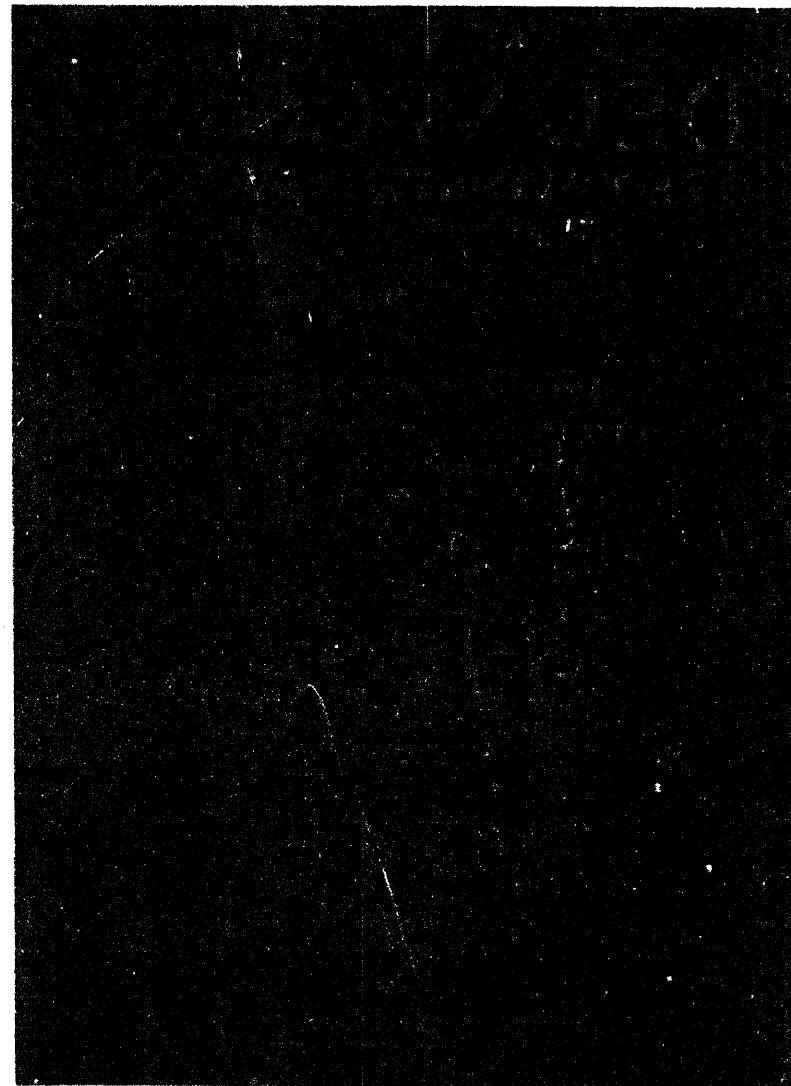


I

nagtive の作り方



Positive



negative